

ケーブルテレビのコミュニティチャンネルの事例： 広域高速ネット二九六

一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス (ACCS) 理事長 太田 秀也

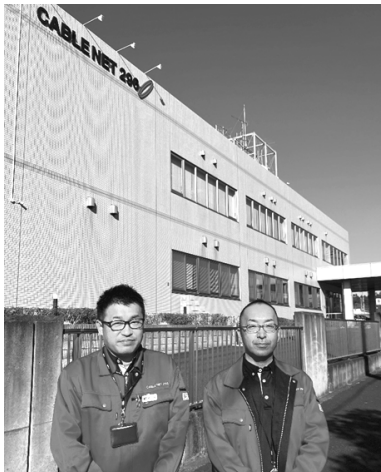
前号においては、個別のケーブルテレビ局のコミュニティチャンネルの番組内容や制作体制について、株式会社多摩テレビについて取り上げたが、今回は、株式会社広域高速ネット二九六のコミュニティチャンネルについて紹介することとした。

1. 広域高速ネット二九六について

株式会社広域高速ネット二九六（代表取締役社長藤本光弘氏、本社所在地千葉県佐倉市ユーカリが丘、以下「ケーブルネット296」と記す）は、1984年10月に全国に先駆けて都市型ケーブルテレビ会社としてスタートした会社である（役職員数169名（役員9名、正社員127名、契約社員等33名））。

現在では、佐倉市、四街道市、千葉市花見川区・若葉区・緑区、印旛郡酒々井町、八街市、富里市、東金市、印旛郡栄町、印西市、山武市、大網白里市、茂原市、成田市、香取市、香取郡神崎町にひかり回線の全域整備を完了し、インターネットサービス、テレビサービス、固定電話サービスの提供を行っている。また、モバイルサービス、でんき、ガスサービス、家電製品販売等の事業も行っている。加入世帯は約8.5万世帯である。

放送事業としては、地上デジタル放送、ラジオAM・FM放送、BS放送、多チャンネルCS放送に加え、コミュニティチャンネルがある。



ケーブルネット296の放送制作部の皆さん
(通信技術センター前で) (筆者撮影)

2. コミュニティチャンネルについて

(1) コミュニティチャンネルの番組内容

3で紹介する番組のほか、下記のような番組がある。

- ・「296NEWS」（地域の身近な情報満載の最新ニュースを伝える番組。平日毎日更新）
- ・「デリバリースタジオ☆296」（飲食店等のお店やお出かけスポットなどの情報を伝える番組）
- ・「房総ご当地キャラバン～観光&グルメ！～」（千葉県のおすすめスポットをタレントがリポートする番組。ジェイコム千葉との共同制作）
- ・「女子旅♥ちば銘酒探訪Ⅱ」（千葉県内にある酒蔵を女子アナ2人が巡る番組）
- ・「麺娘」（地域の絶品麺を紹介する番組）
- ・「熱戦！スポKIDS！！」（地元子供参加のスポーツ大会をダイジェストで紹介する番組）
- ・御朱印グルメぐり
- ・ふるさと発！ドキュメント～地域∞無限大～
- ・「ふるさとチャンネル」（地域の団体の活動やイベントを紹介する番組）
- ・「佐倉市広報番組 Weeklyさくら」
- ・「佐倉商工会議所だより」
- ・データ放送（24時間放送）
- ・ショッピング番組

（※ほかに千葉県ケーブルテレビ協議会共同制作番組「ちばのミライ～知事室へようこそ～」や、「おまつりニッポン」「壮観劇場」等の購入番組等も放送している。）

(2) コミュニティチャンネルの制作体制

担当は放送制作部で、番組制作は20名体制（他に業務委託の専属アナウンサーが1名）である。業務は一部委託している（番組制作会社6社、芸能プロダクション8社）。

ニュースなどは全員体制で作成しているが、その他各番組はそれぞれ担当が決まっているということである。

なお、放送制作部では、自主放送番組制作に加え、外部からの受注を受けて映像制作（企業CM

映像、建設事業記録映像、ドローン空撮映像等の業務も行っているということである。



放送制作部の職場



制作スタジオ

3. 個別の番組について

以下、いくつかの番組について、その内容、制作方法などについて、ケーブルネット296の放送制作部の藤本健太郎部長、吉橋英弘グループ長補佐に取材（2026年2月9日）した内容も交えて、紹介することとしたい。

(1) 「NEXTEP（ネクステップ）～地域から…未来への提言～」

i) 概要

地域で抱える課題を徹底的に調査して原因を追究し、他の地域での取り組みや好事例などを取材しながら、専門家とともに解決の糸口を掴むきっかけを探る番組（2019年～）。30分枠、2026年2月までに下記の4本の番組が制作・放送されている。

- ・「空き家問題」1本（60分番組 2019年）
- ・「高齢ドライバーの事故を減らすには」(30分番組7本、総集編60分1本、2020年～2022

年) (第49回日本ケーブルテレビ大賞番組アワードグランプリ 総務大臣賞受賞) (第61回ギャラクシー賞 報道活動部門 奨励賞受賞)

- ・「砂浜が消える…九十九里浜で進む海岸侵食」(30分番組14本、総集編60分1本、2022年～2025年) (第51回日本ケーブルテレビ大賞番組アワード ソリューションジャーナリズム賞、第45回「地方の時代」映像祭 ケーブルテレビ部門優秀賞を受賞)
- ・「どうなる日本のお米!？」(30分番組4本、2025年～2026年2月時点(継続中))



ii) 制作方法等

すべて自社スタッフにより制作。基本、ディレクターが企画・リサーチ・構成・取材・スタジオ収録・編集を担当(アシスタントが1人付いている)。取材はディレクター、カメラマン、アシスタントの3名が主な体制。スタジオ収録は主に5名体制(プロデューサー、ディレクター、カメラマン、技術、アシスタント)。

iii) 番組内容

2025年の『砂浜が消える…九十九里浜で進む海岸侵食』は、地域で進む海岸侵食について取り上げ、九十九里浜の各地域の現地取材を行いつつ、海岸侵食の現状、行われている対策を紹介するとともに、他地域の先進事例の取材・紹介も行っている。加えて、対策が進んでいない地域も取り上げ、その地域において番組独自のアンケート調査等も実施し、その結果を自治体首長に報告し、首長のコメントを取るなど、「突っ込んだ」内容となっている。そのうえで、最終的には専門家(4名)の提言と番組MCの専門家の総括的な提言を行って番組を締めくくっている。

iv) その他

この番組は、地域に根差す放送局として、地域の人から信頼され、頼りにされるため、「地域課題を解決に導く番組を制作しよう」という

問題意識を、社長はじめとして全社的な共通意識を持ってはじめられたということである。

(2) 「歴博のミカタ」

i) 概要

佐倉市にある国立歴史民俗博物館（通称「歴博」）の面白さを、タレントが歴博の研究者等とレポートする番組（2015年～）。歴博の特集展示や企画展示の内容を紹介している。15分枠、展示会開催の都度制作しており、2026年2月までに100本以上の番組が放送されている。

ii) 制作方法

番組開始時は自社スタッフにより制作（ディレクター1名、カメラマン1名）していたが、2018年5月放送からディレクターのみ社員、その他撮影・編集は外注委託している

iii) 番組内容

最近の放送では、特集展示「生田コレクション 鼓胴」、企画展示「野村正治郎とジャポニスムの時代—着物を世界に広げた人物」、特集展示「和宮ゆかりの雛かざり」、特集展示「明治の神道家—旧幕臣秋山光條とその資料—」など、様々な展示が紹介されている。

iv) その他

視聴者からは、歴博に行く前に番組を見ると展示内容が理解しやすいという評価があるということである。

(3) 「建築遺産」

i) 概要

千葉県内の優れた建築物の魅力を紹介する番組（2020年～）。デザイン性、機能性、周辺環境との融和など様々な要素を含んだ現代建築を中心に、リポーター（アナウンサー）が、建築物のオーナーや建築家の話も伺いながら紹介している。25分枠、毎週更新で、2026年2月までに65本の番組が放送されている。

ii) 制作方法

ディレクターのみ社員、その他撮影・編集は外注委託。

iii) 番組内容

最近の放送では、大多喜小学校（大多喜町、大多喜城とリンクした瓦屋根の連なる外観の建築物）、東洋理容美容専門学校（千葉市、髪の毛をイメージし抽象化したスタイリッシュな造形の建築物）、旧岩崎家末廣別邸（富里市、木造平屋建ての主屋・東屋・石蔵で構成されている国登録有形文化財である建築物）、HAPPY

NUTS DAY（山武市、元幼稚園をピーナツバター工場と店舗にリノベーションした建築物）など、地域の様々なタイプの建築物が紹介されている。

4. 若干のコメント

NEXTEP（ネクステップ）～地域から…未来への提言～」は、地域の課題について、長期シリーズにより、専門家の知見も交え、徹底的・専門的な取材・調査を行い、課題解決の提言を行うという、骨太で見応えのある番組となっており、地域メディア、「ソリューションジャーナリズム」として地域に貢献しているすばらしい番組となっている。3年にわたる取材など、多くの労力・コストをかけて制作されており、トップの意思、制作現場の意欲が伝わってくる。

「歴博のミカタ」は、専門的な展示内容について、リポーターのタレントと歴博の専門家の掛け合いや丁寧な解説により、分かり易く伝える工夫がされており、地域資源である歴博への関心を高め、地域への来訪等にも寄与していると思われる。

「建築遺産」は、建物外観をドローンで撮影したり、内部の間取り図を作成するなどの工夫がされ、また、建築家に設計施工の工夫や苦勞について話を伺うことなどにより、建築物の魅力が分かりやすく伝えられている。

※本稿の内容は、筆者個人の見解であり、筆者の属する組織としての見解ではないことを申し添える。